# 三宅島新報

発行所：三宅島ふるさと再生ネットワーク
〒100-1101
東京都三宅島三宅村神着320-2
TEL 090-4922-0798
発行人：会長 佐藤就之


## 11月も多くのイベント
# 結びつけたい 観光の振興に

**三宅島では11月に様々なイベントが組まれている。重要なのはこのようなイベントを観光業の振興に結び付けることだ。また、帰島10周年に向けた取り組みを考える必要もある。**

天候不順で、三宅島もイベントや観光業に悪影響を与えている。11月も大きなイベントが予定されているが天候が気になる。好天候に恵まれ成功させたいと願っている。

雄山山頂の溶岩石コースは、日本一の難所。一見の価値あり（ポスターの一部）

**・福祉まつり**
11月9日（日）阿古体育館・フリーマーケットや大抽選会など行う（詳細は社協まで）。

ネット&ミツヤス島市コーナーは、行列が出来、売り切れ御免状態！

**・2014WERIDE三宅島エンデューロレース**
11月15日（土）～16日（日）三宅島展望台～村営牧場跡地・日本一の難所と日本一の賞金総額が売り。一流選手も参加。

**・島市**
11月16日（日）三宅村コミュニティセンター・午前10時30分～午後1時（汽船の寄港場所により12時30分で切り上げ）

**・第15回三宅島産業祭**
11月22日（土）阿古体育館・駐車場午前9時から午後3時まで（島市も併設予定）

立派なイベントも観光業に結びつかなければ予算の無駄遣い。調布飛行場には、大島と神津島の広報（イベント情報含む）があり感心した。

## 帰島10周年への対応は？

三宅島が帰島を検討し始めたころ、04年10月23日新潟県中越地震が起きた。島民連絡会は、募金を集め東京ボランティア支援センターの仲介で臨時役場に行き当時の長島村長（現衆議院議員）などと交流した。私たちも帰島10年が経つ。

日本災害復興学会は、一般参加も呼びかけて10月23日～26日に14年度長岡大会を開催。公開シンポジウムを開く。第1部「中越大地震と復興情報」パネリストは泉田新潟県知事、長島衆議院議員、田中東京大大学院教授、コーディネーター山崎登NHK解説主幹。第2部「中越から東日本大震災へ」パネリストは、森長岡市長、中林明治大学大学院教授、木村拓郎減災・復興支援機構、コーディネーター渡辺新潟日報社専務。山古志コース、川口コース等の視察も。

他に、11月1日午前8時10分東京駅発バスで現地へ。2日午後6時ごろ東京駅着の「中越大震災10年メモリアルツアー」もある。山古志などの見学、意見交換など（齊藤塾ホームページより）。三宅島の帰島10周年は？参考のため紹介した。

## 事務局便り

**○第38回世話人会**
11月18日（土）18時30分から巣鴨駅前ルノアールにて。

**○三宅島支援者の集い**
12月13日（土）19時から、ビストロおきみくらにて支援者の集いを開催いたします。参加希望の方は事務局までご連絡ください。

**○ご寄付のお願い**
郵便振替口座
口座番号：00120-3-545036
口座名称：三宅島ふるさと再生ネットワーク


**【三宅島ふるさとネット事務局】**
郵便番号：173-0005
住所：板橋区仲宿25-6
電話：03(3963)5678
FAX：03(3963)5697
担当：栗原






## 「阪神高齢者・障害者支援ネットワーク」黒田裕子さんご逝去
# 三宅でも高齢者などのために尽力

**「阪神高齢者・障害者支援ネットワーク」で理事長を務める黒田裕子さんが亡くなった。黒田さんは阪神・淡路大震災における被災支援の経験を生かし、その後起きた災害の被災地で指導的な役割を果たした方で、三宅島でも講座を開くなど積極的に活動された。謹んで心よりお悔やみ申し上げます。**

黒田裕子さん（73歳）が9月24日に肝臓がんのため亡くなった。ここに哀悼の意を表し、謹んでご冥福を祈ります。

阪神・淡路大震災当時、兵庫県宝塚市立病院の副総婦長も辞しNPO法人「阪神高齢者・障害者支援ネットワーク」設立。

三宅島には07年8月、08年3月の2回来島し、同行の医療専門家とともに各地区・行政・福祉関係と交流、講座も開いた。

ふるさとネットも向上高校が震災当時から仮設住宅にボランティア活動で交流があり、07年8月7日～9日まで神戸を5人で訪問。本紙11号（07年9月1日）で黒田さんと座談会を特集した。

また活躍は、日本に止まらずトルコ、中国・四川、ハイチなど海外被災地を訪ね支援を行った。阪神・淡路大震災は、「ボランティア元年」と言われ「ボランティアは社会を変える」との共著もある。ボランティア活動家の象徴ともいえる黒田さんの予期せぬ訃報に愕然としている。（佐藤）

三宅島で支援活動を行う黒田さん（左端・08年3月）

## 黒田さんの見守り活動の手引
（訪問のポイントから）

- 一般ボランティアを2名で配置、固定制にする（利点）
- 異常の早期発見ができる
- 住民が定期的なボランティアを楽しみにまつことができる
- 生きがいつくりにつながる
- 信頼関係がきづきやすく、深みのあるケアができる
- 生活基盤の調整がしやすい
- ボランティアの成熟に役立つ

（訪問のポイント）

- 訪問時、「こんにちは」といってから、出てくるまでどのくらい時間がかかったか
- 戸のあけ方、開きの大小、戸をあけるときの目の方向はどこか
- 台所は汚れていたか、食事を食べている形跡はあるか
- ゴミ箱をみる（同じ空箱があるようでは、栄養状態があやしい）
- 食器の移動があるか
- 畳の角が汚れているか

## ご寄付者名
（8月11日～10月16日までのもの）

**ネット副会長光安千久子様**「ふるさとネットを支えている事務局、三宅島新報作成のDTPA、芸能関係者などボランティアの皆さま有難うございます。噴火14年、帰島9年の間長きにわたり御支援に感謝します」

**高橋民夫様（文化放送）**「みなさまのご苦労に敬意を表します」

**M様、吉田信行様、芳賀雅美様、浅井美子様、笹井美奈子様、小林舞様、有本香保子様、糸井真由美様、竹田志保様、湯澤実咲様、加藤真澄美様、菊池千春様、金子智様、土岐富士子様、小久保奏枝様、大石真様。ありがとうございました。**

## 編集後記

今号では、三宅のイベントや島の医療に関する記事を掲載しました。私たちも、島の介護や高齢化率など、島の深刻な現状がわかりました。

また、去る9月24日には、三宅とも関わりの深い黒田裕子さんがご逝去されました。私たちDTPA、そして向上高校新聞委員会でも、ボランティアや被災地取材などでお世話になっており、突然の訃報で驚いています。心よりご冥福をお祈り致します。

（DTPA一同）